

いの町 菊池学園だより (第36号)

今年度、各校では目指す教育の姿にむけて研究・研修を行い、公開授業をしています。温かい関係性のある学級のなかで、ポイント1「学び合うための「動きのある対話・話し合い」と、ポイント2「挙手⇒指名⇒発表のみからの脱却」を通して、少人数による話し合いのある授業を行っています。

少人数による対話によって、子どもの学びを深めるためには、「**教師の介入**」が大切です。このことを、これまでの公開授業での菊池先生の講話を紹介します。

◇川内小学校版寺子屋

①45分間ほとんど先生が喋ってしまう授業から、子どもの質問を中心とした授業に変える。



②ディベートは「なぜ思考」を促す。
・対立することで他者を意識する。
・一人一人多様な回答があってよい。
・言葉による自己表現。

③動きのある対話・話し合いの授業のため
・教師の介入が必要。
・対立場面を作る。

左の記事は、今年6月の川内小学校の公開授業での菊池先生の講話内容です。

(令和3年度 No.5 (370号) 令和3年7月28日(水)
教育研究所だより 発行所:いの町教育研究所)



下の記事は、今年10月の本川中学校の公開授業での菊池先生の講話内容です。

(令和3年度 No.14 (379号) 令和3年11月2日(火)
教育研究所だより 発行所:いの町教育研究所)



③思考を深めるために

- ・AvsBの状況を作る(ディベート)
- ・解が多様(発問の工夫)
- ・教師の介入
- ・ゆさぶり



このようなものを準備しなければ深い思考にはなりません。具体と抽象を行き来する等、教師の介入やゆさぶりが必要です。

先生方は、授業中にこのような状況になった経験はありませんか。

先生「グループで話し合いましょう」
子ども「…」(プリントを見せ合うだけ)
先生「子どもたちって、話し合わないんです」

先生「友達の発表を聞いてどう思いますか」
子ども「…」
先生「子どもたちって、質問しないんです」

そもそも、子どもはどう話し合っているかわからないのではないのでしょうか？

教師の介入

話し合う必然性が生まれます

- ・感想を一言言い合ひましょう。
- ・友達の意見に〇つ質問しましょう。
- ・先生は〇〇だけどどう思いますか？
- ・どの意見が一番いいと思いますか？(分裂させる)
- ・その理由は？
- ・AかBか、どちらですか。(対立させる) 等

いの町 菊池学園だより (第36号)

自分らしさが発揮できる学級づくりのために、各校では「価値語の植林」「成長ノート」「ほめ言葉のシャワー」をベースとして取組を進めています。

訪問した際や先生方と話す中で「価値語の植林」について、次のような悩みを相談されることがあります。

価値語

悩み

- いい写真がない。
- 写真を撮るタイミングがない。
- 写真を撮っても、価値語がつけられない。
- そもそも価値語って何？

一つ一つの価値語がどういう状態（状況）を表しているのか、先生はしっかりとイメージをもっていますか？

↓

どういふ状態（状況）がその価値語を表しているかを考えましょう。

例えば、「一人が美しい」の場合

その時の子どもの

○動き ○表情

○目線 ○セリフ

どういふ状態（状況）であれば良いか、思い浮かべることができますか？

写真を撮ってからそこに（無理やり）価値語をつけるものではありません。

こんな子ども・学級にしたいというイメージを持ち、その姿をカメラに収めましょう。

具体的な取組例として、本川中学校 西田景太先生の取組を紹介します。

西田先生は、「菊池先生の価値語日めくりカレンダー」の価値語の写真を、自分の学級の生徒がその状況を表している写真に置き換えて、学級版の価値語日めくりカレンダーを作成し、活用しました。



西田先生に、この取組を行うようになったきっかけや思いをお聞きしました。

『「菊池省三先生の価値語日めくりカレンダー」を毎朝、朝学活で確認をしていましたが、読むだけであまり意識ができていない印象がありました。そこで、毎朝1日に1枚ずつクラスの生徒の写真が写っている写真で、価値語を確認するようにしました。写真に対しての注目度も高く、クラスの生徒が写っているので、価値語をイメージしやすくなったように思います。』

価値語の取組に悩んでいる先生は、参考になさってください。